

【スライド1枚目】 開始～0分21秒

小川珈琲株式会社京都工場の発表をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

タイトルにあるとおり、コーヒー生豆麻袋のリサイクルと廃棄物処理、主にこの2つについて紹介します。

【スライド2枚目】 0分21秒～0分32秒

1つ目は、コーヒー生豆麻袋のリサイクルということで、コーヒー生豆麻袋について御説明します。

【スライド3枚目】 0分33秒～1分10秒

コーヒーは生産国から生の状態、皆さんがよく目にする茶色ではなく、その前の白い状態で輸入されます。その豆が、写真のような麻袋に入っています。この麻袋は弊社から毎日大量に出ますが、このリサイクルが難しく、今までは基本的に廃棄していました。

【スライド2、3枚目】 1分11秒～1分44秒

その数量は、年間27トンになり、これを何とかリサイクルできないかという問題意識を前から持って、協力会社から麻袋のリサイクルについて案内いただいたことから、一緒に活用方法を考えました。

【スライド5枚目】 1分45秒～2分48秒

どのような形でリサイクルしているかという点、こちらに記載のとおり、まず、弊社の京都工場から麻袋が出ます。それを大阪の工場写真のような「反毛」という繊維状のものに戻して、これを右の写真のようなフェルトに加工してアップサイクルしています。このフェルトは色々な用途がありますが、主に車の天井材などに使われています。また、このフェルトは、弊社の喫茶店で使用するコースターにも一部使用しています。

【スライド4枚目】 2分49秒～3分08秒

麻袋の回収の様子は写真のとおりであり、弊社の工場内に貯めておいて、ある程度たまったトラックに取りに来ていただいて、工場に運んでいます。

【スライド6枚目】 3分09秒～3分43秒

実際の活動の成果について、3年前の66期では全量廃棄していましたが、昨年では廃棄はなく、全量活用できました。

【スライド7枚目】 3分44秒～5分06秒

このリサイクルの取組により、産業廃棄物の処分費用として年間36万円ほどかかっていたものがなくなったことに加え、麻袋を1kg1円で売却しているため、年間2万5千円ほどの収入がありました。

また、これまでの麻袋の焼却処分に伴うCO₂などの温室効果ガスの排出がなくなりました。大きな特徴として、大阪から弊社の工場にトラックで麻袋を取りに来ていただいているのですが、このトラックは大阪と京都の工場をもともと行き来しているもので、他の用事のついでに弊社の工場に寄って、麻袋を

回収いただくことで、弊社にとって物流費がかかっていないということと、輸送に伴う余計な CO₂ 排出がないということです。

以上が麻袋の活用の取組になります。

【スライド8枚目】 5分07秒～6分48秒

2つ目、弊社の京都工場ではその他にも様々な廃棄物が発生します。

廃棄物はスライドのとおり5つに分別し、それぞれ数量を計上して、リサイクルを行っています。

リサイクル方法は、コーヒーとペットボトルとそれ以外の資源ごみ、一般ごみ、プラスチックで分かれており、資源ごみ、一般ごみ、プラスチックについては、株式会社大剛様で RPF 固形燃料に加工して、様々な会社で活用いただいています。

コーヒーについて、工場では様々な種類のコーヒーを焙煎して、それぞれパッケージに詰めております。この作業で、ある商品から別の商品に切り替える際に、パッケージに前の商品が混ざってしまうことを防ぐために、切替えのタイミングである程度の量を捨てることとなりますが、それを一定量貯めておいて、家畜の飼料としてリサイクルしていただいています。

【スライド9、10枚目】 6分49秒～7分13秒

こちらが回収の様子です。廃棄プラスチックについては、株式会社安田産業様に回収いただいております、株式会社大剛様に運搬いただき、こちらで燃料に加工されています。

【スライド⑩枚目】 7分14秒～7分41秒

廃棄コーヒーについては、株式会社安田産業様に回収いただいております、家畜の飼料にするに当たって、コーヒーだけでなく他の飲食店やスーパーなどで出た生ごみなどを混ぜて家畜の飼料にリサイクルしていただいています。

【スライド12枚目】 7分42秒～9分28秒

3つ目は、ブルーマウンテン樽の活用です。

コーヒーは麻袋に入って輸入されているとお話ししましたが、ブルーマウンテンコーヒーは、一般には麻袋ではなく写真のような樽に入って輸入されます。こちらの樽も今まであまり活用方法がなく、基本的に捨てており、こちらも何か活用できないかと考え、建築デザイン・内装をされている株式会社船場様に相談したところ、テーブルに加工可能とお聞きして、写真のようなテーブルを作成しました。このテーブルは、大丸京都店様が2023年夏に屋上を改装された際に、屋上に設置いただいています。今まで麻袋など活用が難しかったものが、このような形で有効に活用できているところが今回の成果です。

以上が京都工場の取組です。